

各 位

土木学会全国大会研究討論会のご案内

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

土木学会建設用ロボット委員会はこのたび土木学会平成24年度全国大会において下記の要領で討論会を開催いたしますので、ご案内申し上げます。

ご多忙中とは存じますが、お繰り合わせの上、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

敬具

平成24年8月吉日

土木学会建設用ロボット委員会
委員長 建山 和由

記

1. 開催期日： 平成24年9月5日（水）16:15～18:15（2時間）
2. 開催場所： 名古屋大学東山キャンパス 工学部1号館2F
VI-1（1-121）教室
<http://www.jsce.or.jp/taikai2012/guidance.html#access>
3. 交通手段（例）： 15:36名古屋駅発東山線・藤が丘行→15:51本山駅着
15:59本山駅発名城線右回り・八事・新端橋方面
→16:01名古屋大学駅着→徒歩すぐ
4. タイトル： 未来の土木技術に貢献する建設用ロボットのあり方について
－災害対応から学ぶ建設用ロボットがフィールドで活躍するための条件とは－
（別紙ちらし参照）
5. 全国大会参加登録料： 研究討論会のみ聴講の場合、無料*
【登録受付を通らず直接教室にお越しください】
（*翌日6日の基調講演および特別講演も同様）
6. 全国大会情報詳細： <http://www.jsce.or.jp/taikai2012/>

以上

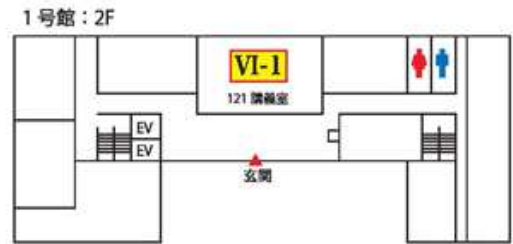
「未来の土木技術に貢献する建設用ロボットのあり方について」

－災害対応から学ぶ建設用ロボットがフィールドで活躍するための条件とは－

東日本大震災という複合災害の恐ろしさを体験した今、これまで想定していなかった種類や規模の災害に対応するための技術として、建設用ロボットの有効活用に期待が寄せられています。複雑かつ過酷な災害時の状況に対応するには、フィールドにおける検証と改善を繰返し継続的にいき、ロボット技術を高める必要があります。今後、災害時の早期かつ安全な復旧・復興の観点からも建設用ロボット関連技術の開発に国を挙げて力を注ぐことが重要です。

研究討論会では、フィールドで作業するロボットの研究開発または利活用について深い知見を有する専門家に参加いただき、災害にも対応可能なロボットの開発や運用に何が必要なのかについてパネルディスカッションで話し、未来の土木技術に貢献する建設ロボットのあり方について探っていきたいと思います。

1. 開催期日：平成24年9月5日（水）
16時15分～18時15分（2時間）
2. 開催場所：名古屋大学東山キャンパス 工学部
1号館2F VI-1（1-121）教室
3. 座長：（建設用ロボット委員会委員長）



4. パネリスト：

立命館大学 総合理工学院 理工学部 環境システム工学科 教授	建山 和由
東京大学 工学系研究科 精密工学専攻 教授	浅間 一
（予定） 東北大学 大学院 環境科学研究科 環境科学専攻 教授	高橋 弘
国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 施工安全企画室 室長	山元 弘
首都高速道路株式会社 技術部 技術推進グループ	並川 賢治
東亜建設工業株式会社 土木事業本部 機電部 機械グループ	泉 信也
株式会社熊谷組 土木事業本部 機材部	北原 成郎
株式会社フジタ 建設本部 土木エンジニアリングセンター	大井 隆資

浅間先生 基調講演！

多数のご参加お待ちしております

「福島原発事故対応で求められるロボット技術・遠隔操作技術」

東日本大震災に伴って発生した福島原子力発電所の事故現場においては、人では困難な作業が多く、ロボット技術の適用が求められています。講演では、これまでに福島原子力災害の現場で適用されたロボット技術について紹介するとともに、これからの原子力発電所の事故の収束に向けてさらに求められているロボットや遠隔操作機器について解説いただきます。

また、これまでの開発や現場投入において明らかになった様々な課題や、今後行うべき取り組みなど、他ではなかなか聞くことのできないお話をいただきます。



浅間 一 先生（日本ロボット学会 副会長）
（略歴）

1984年 東京大学大学院工学系研究科修士課程修了
2002年 東京大学人工物工学研究センター教授
2009年 同大学院工学系研究科教授
自律分散型ロボットシステム、空間知能化、サービス工学、
移動知、サービスロボティクスの研究等に從事
2009年日本機械学会ロボメカ部門功績賞等受賞
工学博士（東京大学）